

## 第4回大月市立大月短期大学附属高等学校基本問題審議会議事録

日 時 平成21年10月16日(金)午後5時57分～午後7時58分

会 場 大月市民会館 4階 会議室

出席者 委 員 13名

平井会長 小原副会長 田辺委員 小俣(芳)委員 佐野委員 市川委員 小林委員

渡邊委員 斧田委員 山口委員 山田委員 小俣(二)委員 井上委員

欠 席 者 2名 古見委員 松葉委員

事務局 6名

小笠原教育長 坂本次長 小俣校長 坂本事務局長 雨宮主幹 金畑主任

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 会長あいさつ

#### 3 議 事

##### ア) 前回会議録の承認

原案のとおり承認された。

##### イ) 諮問内容の審議について

議 長 諮問内容の検討に入る前に、事務局で今日お配りした資料について、説明をお願いいたします。

事務局 県立高等学校整備基本構想について説明(別添資料)

事務局 平成21年度中学校卒業予定者の第1次進路希望調査結果の概要について説明(別添資料)

議 長 何かご質問はございますか。ないようですので審議に入ります。

これまで3回の審議会がありました。特に2回目については皆さん方のお考えをお聞きし、前回3回目の時にそれぞれ諮問事項として出されている内容について、いろいろと審議をしたわけです。

諮問の内容は存続の「是」か「非」ということですが、なかなか本音が出せないわけですが、最終的には「是」か「非」という結論を出していただいて、答申として提案するという形になると思います。

その中で具体的には、提案されたものがあるわけですが、心情的には存続してもらいたいという意見はかなり出ていますが、具体的なものというとなかなか出てこない。

あと、最初に出されていた4点ですが。答申に必要な概要として、「少子化に伴う高校進学者の減少」「教員の資質向上と教育力の確保」「学校施設の耐震化と短期大学との併置の問題」「市の財政難」とが出ているわけですが、この辺について事務局から説明があったわけですが、最終的にはこれを踏まえて一体どうするのかという事になるわけですが、県の整備構想もある程度関係してくると思います。もし、ここで存続するにしても、閉校するにしても、県の高等学校整備基本構想にありますように、市立高校との関係を踏まえてとあります。この辺がかなり重要なファ

クターになるのではないかと思います。

前から言うように、もし、閉校した場合の受け皿はどうするかという時に、これは県に求めざるを得ない。その場合、この構想の中にそれが入るかどうかという問題。それから、たとえば吉田の場合には私立高校という受け皿がありますが、この地域には無いからという事で存続してもらいたいというようなお話しも出ているわけですが、その辺を踏まえていかがでしょうか。

今後の予定ですと次回である程度結論を出して、そこでまとめた案を皆さん方に見てもらって答申案として出していったらどうだろうかと、私はそんなように思っている訳です。ですから、今日あたりの議論をある程度まとめていただいて、最終的な答申案を次回には出したいと思っている訳ですが、どうでしょうか。審議会の進行について、何かご意見があったならばお聞きしたいと思いますが。

議論は、存続するか廃止するかの話だけなんですけど、存続するなら存続するだけの理論的なものは出ているわけですね。また、廃止するにしても、こういう事だからという意見が出ているわけです。もう少し突っ込んでかみ合わせたいなと思っているんですが、今日のこの会議だけである程度、方向性を見いだしたいと思っています。事務局の方はどうでしょうか。

事務局 今、会長さんから今後の日程について、ちょっと触れていただきました。いろいろ論議がありましたけれど、この会合の当初の段階でスケジュールの説明をさせていただきました。

お手元に配布いたしました県の整備構想の 30 ページの部分に東部学区における県の考え方が示されております。県の方針としては特に東部学区を選考する中で大月市の説明会で 11 月の 18 日に開催したいという日程が出ております。また、前回の会議の中で県へのアプローチというものも少しやったらどうかという事で、実は教育長と私と局長と校長先生で何回か県の方へ足を運んでおります。県の方も大月市の審議会の方向性というものに大変関心を持っているという状況がございます。この中にもありますように、大月市の方向性如何によっては、県の方向性もだいぶ変わってくるという状況も踏まえていると考えているといいんではないかと思います。ある意味ではここの所を捉えないと、後々遺恨を残すことになるんじゃないかと。ちょっと言い過ぎかもしれませんが、そんな風な懸念を私は持っております。今後の日程につきましては、先ほど会長さんが言われましたように、今日の段階で、存続の「是」か「非」という事を論議していただきまして、その中で次回の審議会に向けまして、答申の内容を事務局と役員さんに一任させていただいて作らしていただく。そのものを各審議委員さん郵送させていただいて、そのことに対してパブリックコメントでは無いですが、ご意見をいただきそれに修正を加えて、次回の審議会には、方向性を出していただくという事が出来ますならば、11 月の 15 日頃を目途にその方向性を出していきたい。出来ることならば 18 日の説明会にはある一定の方向性というものを持った形の中で望めたらと思います。もう一つ、庁内的な事を申しますと、記者クラブとの記者会見の中で、審議会の 4 回目、5 回目については、傍聴させていただけるかと言うような要請もございました。それはちょっと傍聴させるわけにはいかない、と言うことで教育長さんの方からお断りをしていただいております。方向性については、記者会見をしていただきたいと言うような要請もありますので、そうした事も踏まえる中で考えていかなければいけないかなあと、そんな風に考えております。

議長 先ほどの資料の 30 ページにある「市立高校との関係も踏まえ」と言うようなかなり重要な中身になるわけですね。

ですから、ここである程度どうするかという事が決まれば、それを見ながら県の方でも整備構想を作っていく形になるような気がするわけです。これは実際、県に聞いてみないと分からないですけど、教育長さん達が県とある程度の折衝をして、ある程度感触は得ているという風に判断している訳ですが、そういう事がある程度置きながら審議会の結論を出して行かなければならないかなと思いますが、少し拙速じゃないかなという感じはするわけですけど、県の方でもう既にこういう風に出ておりますので、ある程度これに間に合うように方向性を決めていかなければ行けないと思う訳です。

委員 県の整備構想を見させていただきましたけれど、内容から言えば、もし閉校となった場合の受け入れ先としては、県が十分に検討するという条件付という訳ではないですけど、そういう流れになってきていると言うことは確かだと思います。そうであれば、我々が確実に閉校だと言うことは、この審議会では言えないと思うんです。最終的に閉校するかしないかは、議会で決める事ですので、もし閉校という流れで行く場合は我々の答申案の中に、こういう条件で、こういう流れであれば我々は閉校でもやむを得ないし、それをご協力願いたいという中で答申案を出して、それを議会で承認していただいて、県の方にもご協力願うという流れが一番スムーズではないかと。ただ、我々がそこで閉校と言うことを口にしてしまえば、そちらが勝手に閉校したんだと言われても困るわけですから。いわゆるこの基本構想が有る故にこの条件が飲めると言うようなお互いに協力しあうと言うような形の中の答申案を出すしか実際内容的には無いような気がしますがいかがでしょうか。

事務局 私の説明が少し不足しておりまして、あくまでもこの審議会に出されたものを最大限尊重するという形の中で、答申は答申としてその方向性を出していただき、最終的には市議会に諮らなければならないと思います。議員さんもいらっしゃいますからある程度市議会との調整はつくかとは思いますが、そうした形の中で大月市の方向性が決まっていくという形になります。

もう一つは、市長が第一回の審議会でご挨拶した中にありますように、今回の諮問については「大変重く、極めて重要な難しい諮問である。」という形の中で、それは何故かということ、審議会として存続の「是」か「非」という方向性をどちらかに出していただきたい。という願いがあったと思います。その内容の中で答申案を出していただき、そのものを先ほど申しましたように行政として尊重し、十分な検討を加えた上で、整備計画という形で作成し、議会の同意を得ることになるかと思っています。

議長 事務局から説明があったわけですが、最初の段階での諮問がどうだったのかという説明があったわけですが、最終的に答申を出す経過は一応文章にして出さなければならないと思うんです。最終的にこの経過を踏まえ、ではどうなるかというそういう所まで審議会として出さなければならないですね。ですから、ある程度その方向性をここでもって結論として出してもらわないと、という事になるわけですね。ですから、存続するにしても閉校するにしてもそこまでの過程の話は経過として文章として残していかなければならないと思うんですね。そうしないと結果だけ見ただけじゃあ皆、了承してくれないと思うんですよね。その為に審議会で議論したわけですから。

最終的に議論した結果はこういう事ですと。

前回の基本問題審議会の最終的な結びに、「良く審議して」という形のものが出ているんですよね。18年の3月に出した答申で、私も何回か読んでみて、結びが「本答申を真摯に受けとめていただき、当市局において、厳しい社会情勢などを踏まえ、十分な論議を経た中で附属高校の方向性を見出していく必要がある。活性化の話は、前に出ているんですが、最終的には方向性を見出していく必要があると。ですから、今回、ここの方向性を見出す最終結論みたいなものですね。そういう感じとして私は受け取っているわけですが。今回は、審議会において方向性が社会情勢を踏まえ十分な論議を経た中でとなっております。ですから、十分な論議を審議会でやっていただいた、という風に判断すればここでもってある程度方向性を出していかなければならないという感じはするわけです。

委員 今、存続のためには、基本的にはただ存続するんじゃなくて、活性化を付けられる理由があって、将来構想が出来るという事がないとやはり活性化にはならないですね。十数年前ですけれど一つの案として制服をちょっとお洒落にしようという事をやったんですよね。それで一時的にすごく増えた時期もあったんですよね。それは一時的なカンフル剤に終わってしまったという事もあって、まあどういう風に活性化させるかという事は非常に難しい事だと思うんですよね。市自体が今、活性化が正直言って難しいという事態の中で、それをさらにこの分野を活性化させるという事はすごく難しいという段階であると言うことは確かだと思います。ですから明らかに活性化してこれからの将来展望があるというものが見出されればよろしいんですけど、私もいろいろ考えて私の中では見出せなかった事は確かだと思っております。

議長 今、存続する為には活性化が必要だと言う事で、この前、先ほどお話ししたように提案してあった2クラスで富浜中の跡地に移す。これはまあ、財政的な問題もあったもんだから、結局富浜中に移す。それから短期大学との分離問題もあってそういう形でどうだろうかと言う案も出ているわけですね。存続する場合にはこういう形のものしか出ていないわけなんですよ。ですから後、存続するという積極的なご意見があれば何かそれに付け加える理由、あるいはご意見があればお願いしたいんですが。そうでないとすれば、最初から出ている「少子化の問題」「財政問題」「教員資質の問題」どれを捉えてみても活性化になかなか繋がらないんですね。とすればここで、県との関係でいわゆる閉校という考え方を持たざるを得ないのかなあという感じはするわけですが、ちょっとその辺のご意見があったらお願いしたいと思います。

委員 今、お話にありましたように、どうやったら学校を活性化できるかという事です。将来的な展望が望めるならば良いわけですね。ところが、2クラスの場合ですとね、たとえばこの基本構想の26ページを見ていただければ分かると思いますが、2クラスの場合には教員数が非常に少なくなる。そのためにまず教育過程が組めなくなる。ようするに生徒が学びたいものが学べなくなる。たとえば社会なんかそうですし、理科なんかもそうですし、芸術関係もそうです。教員数が17人なら17人と決まってくると、例えば体育の先生が何人、英語の先生が何人、数学の先生が何人、社会の先生を日本史とか世界史とか地理とか政経とか4人とか5人取れないんです。そういう事とかそこにも書いてありますけれど部活動の活性化もなかなか出来にくい。2クラスで学校教育していくことは、余程のことがないと活性化というのは4クラスでもえらいのに2クラ

スの場合は余程の努力が目標がない限りは出来にくいというのでは将来的な展望と学校の活性化をしていくと言うことは、いわゆる困難になるので残すのは難しいかなと、2 クラスで学校運営していくと言うことは将来的には難しいのではないかなという事を感じております。

委員 事務局にお伺いしたいんですが。大月短大は黒字という事をちょっと聞いたことがあるんですが、その黒字に関して高校の経費的なものにやりくりというか、プラマイするという事はできないですか。ただ、短大の方がどの位の黒字が分かりませんが、黒字について高校の方に会計上まわすとか、そういうような運用は出来ないのかなと。

あと一つは、一番始めの問題で存続するには私立高校とか学校法人だとか近隣市町村との一部事務組合だとかいう問題も上がっておりますけれど、この内容について政治的問題はいろいろあるとは思いますが、行政では検討したことがありますか。

事務局 只今のいわゆる会計上の相殺ということでしょうかね。行政というのはある意味縦割り部分がございます。短期大学は特別会計を組んでおります。ようするに高校とは別の会計を組んでいるわけですね。高校の場合は通常の普通行政の普通会計でやり繰りしているわけですね。その普通会計の中で収支を見ていった場合に概ね1年あたり6千万相当の市税をつぎ込まないと運営が出来ないと。短大の場合はプラスと言ってもそれだけのプラスが出ているわけではございません。ようは国からの交付税交付金というものを考慮した中でやると、概ね短大の経営はプラスマイナスゼロに近いような状況です。ということですね。高校の場合は交付税を加味してもプラスマイナスマイナス6千万円。こういう計算になるかと思います。後段の近隣市町村との問題につきまして、実は正直言ってこれまで組合立とかそういった発想は持っておりません。従いまして、そういう話し合いの機会の場もなかったし、そういう考え方も今の所持っておりません。

ただ、今回の県立高校の再編整備の考え方が進む中でどうなんだろうかなあ、大月高校がたとえば、都留市からも概ね三十数人来ている。お隣の上野原市からも四十数人来ていると。もし、この高校が無くなった場合に、都留市・上野原市はどうするのかと。ようするに大月市と同じスタンスで考えていただかなければならない。そういうことでは今、しきりにコンタクトを取っておりますね、話をかけております。ただ、その話の中でたとえば組合を組むとか一部事務組合でやるとか企業団を組むとか、そういった考えは今の段階では出ておりません。と申しますのは、私どもは教育委員会の立場で相談をかけていますから。今言ったようなお話しはたぶん政治的な配慮。こういったものがないとそういう話というのは出来ないんじゃないかと、そういう風に思います。

今、現在の所残念ですが都留市、上野原市と共同してこれを支えていくという発想は現在も持っておりませんし、実際そういう話はしていないのが現実です。

委員 別に上野原、都留の方では回答は出ていないんですか。

事務局 極端に言うと、6千万円からの赤字の部分を半分ずつにしよう。こういう話になるわけです。それは出来ませんと。という事ですね。従いまして都留につけても、上野原につけてもその辺については、やはり県にお頼みするより他、無いのでは無いですか、というお答えしかございませんでした。

委員 分かりました。

委員 今までのお話を聞きまして、いわゆる大月高校の問題は大月市だけの問題ではないという風にとても感じました。それは前回の審議会の中でもそういうお話しがあって、東部地区全体でこの存続の問題を実は審議しなければいけなかったのかなあという風に思うわけですね。ですから、大月の子どもたちだけが大月高校に来るんだよという状況であれば、それはそれで考えられるんですが、広範囲になって今、全県一区制みたいな形で逆に大月の子供たちもどんどん甲府の方にも、都内の方にも子供が流れているわけです。そうすると狭い範囲で考えてもしょうがないかなとちょっと感じました。東部地区全体の問題として考える時に、この学校をどのようにするかというように捕まえた方がよろしいかなと私は思います。

その 30 ページの中にある東部地域と言うことで、県が市立高校の事をきちんと考えていてくれる訳ですから、逆に言えば県立高校と同レベルで考えていて下さっているんだろうなと思います。

少子化の問題は大月だけの問題ではないんで、子供の減少と共に適正配置をしていくというのは県全体の問題で、大月市が大月高校を閉校の方向、あるいは存続の方向にしても一定の逃げ場が必要だとは当たり前の事であって、それが少子化だとか、コストの問題とか、リスクの問題とか、財政の問題とかだけに収めてしまうと、教育に財政を持ち込むのはなかなか難しい事なので、やっぱりグローバルにその辺を考えて、東部地区全体の子供たちの問題として捉えたほうがよろしいのではないかなというように思いました。

それで、県がせっかく説明会をこれからして下さるという事なので、逆にそれに向けて私たちが逆提案を。こういう形にしてもらえないだろうかとか、こういう形が東部地区には望ましいのではないのかとか、逆に向こうから言われることを受け身に捉えるのではなくて、こちらからそういうものは持ち込んでも良いんじゃないかなあ、とそういう風に思います。

閉校するにあたっては、審議会としてはこういう事を県の方をお願いしてあるとか、こういう事が出来るのではないのかとか、そんな風にもう少し明るくポジティブに考えたらおもしろいかなあと思いました。

それから、2 学級で存続に関してですが、この前私も 2 学級は適正配置なのではないかという事で質問させていただきましたが、さっきおっしゃったように、学校としての機能とか、いろいろ考えると 2 学級というのは難しいというのは、これはもう現場の学校の先生方が一番ご承知になっている事なので、それをあえてするとするならば、相当な構想を持って、相当な覚悟を持って大月高校の存続を考えなければならぬだろうと思います。ものすごい超進学校にするか、ものすごく全国からスポーツをしに来るような学校にするかというような、それにしても設備投資とかいろいろなお金の問題が絡んでくるわけですから、そこをかんがみて、存続の問題は、こういうもう切羽詰まった時期なので、結論を出していかなければならないと思います。

それからもう一つ、この前の審議会の中で意見がありましたけれど、やっぱり社会保障の問題としてどう捉えるかという事も必要だと思いますので、やっぱりこれから世の中を背負って立っていく、未来を託さなくては行けない子供たちの教育の現状を保証しなければならない。そこを踏まえて、そういう提案を県にさせていただければ、皆さんがご心配されているような状況も少しは解消されるのではないかという風に思います。

議長 今までの議論の中でもそういう方向性もあったわけですね。県でもって受け皿として、それを今、もう少し積極的にその辺を県の方へ出したらどうだろうかというご意見だろうと思うんですが、もし閉校と言う話になれば、そういう方向で行く事は当然な事だろうと思うんです。ある程度、県の整備構想の中で「市立高校との関係を踏まえ」という、わざわざここへ載せてあると言うことは十二分に考えていただいているんだと、判断しております。なお、結論はどうなるか分かりませんが、もしそういう風な閉校だという方向性に向いたならば、是非また県の方に、働きかけはして行かなければならない事だろうと思います。県の方も今までかなり大月高校について、いろいろと考えてもらっている訳ですけど、たとえば教員の人事交流についてもあった訳ですが、それも20年度で打ち切られたわけですけども。それもやっぱりかなり県の方でもバックアップしていこうという気持ちがあって、やっていただいたと思うわけです。

ですから、それらを踏まえてある程度、考え方も兼ねて結論を出していかなければならないかなと、こんな風に思うんです。

委員 皆さんがおっしゃったとおりだと全く思います。できれば大月にある高校なので存続という事を考えたいんですが、それにはその将来展望と言うかビジョン、それと投資が必要だという事は良く分かりました。それに、適正規模の学校にしなければそれも出来ない。そんな中で今の大月市が、そこにそれだけの投資が出来るかという事を考えますと、いろんな今の市の状況を聞きますと、前にも話を聞きましたように、今一番大月市が掛けなければいけない所は何かという事で、小中学校の統廃合、耐震化、駅前開発と病院の問題、その辺が最重要課題という事で、大月高校に更に投資する状況ではなく、今の大月市の財政状況をいち早く健全化していく事が一番今やらなければならない事だという話を聞く中で、やはり大月高校の存続は無理かなあと感じます。ちょうど時期が県の再編と重なったということが不幸中の幸いというか、これを逃さずにやはり、今聞いたように積極的に大月高校が無くなった後の子供たちの事を考えて何か提案をしていくというのは良いと思います。

委員 皆さんの意見をお聞きして、ほぼ皆さんと同じような意見を持っております。やむをえないかなあという事が私の結論です。

委員 財政の問題は素人なので全く良く分からないんですが、いろいろ資料を見させていただいて、かなり厳しいと、その厳しさがどの位かどのレベルまで厳しいのかという事が分かると、存続させたいけれどもこれではしょうがないなあ、というような意見も持てると思うんです。今、現在は自分が勉強不足かも知れないですけど、そんなに厳しいのか大月市は。たとえば、年間6千万円、まあ将来的に見たら全然6千万円では済まないですけど、100億円の6千万円といったら0.6パーセントですから、普通の家庭で言ったら0.6%と言ったら年収5百万円で3万円ですか。年間3万円を捻出できない程、家の家計はひっ迫しちゃったのかとか。そういうのと比べると今少し、うーん。全国で財政のひっ迫具合が大月市はどのレベルにあって、それが将来的にはこのまま行ったらどうなっちゃうのか、そこまでひっ迫しているのなら、前に財政の資料を見せていただいた中で5年前の人件費が21年度では9億減らしている。物件費に関しては3億減らしている。以下、ずうっと減らしてきている訳ですね。それを来年度どれだけ減らすかという事を前回お聞きした7億ですか。7億削るのに大月高校の6千万というのは、他に何処を削って、

当然中央病院ですとか比較できる問題ではないんですけど、人件費も比較できる問題ではなんですけれど、ここで存続か廃止かをどちらかに決めると言われたら、比較して優先順位を付けるしか僕の頭の中では、そういうやり方しかないんじゃないかと思うんで。そうそうその辺が自分の知識で、財政のひっ迫具合が全然今ピントきていないんで、安易に存続だ、廃止だと言うのがちょっと言えない。

そういう暗い話はあまり好きではないので、ちょっと明るい話というか、たわいもない話ですけど、さっきの2クラスだと先生が大変だという。ああ、そういうのもあるんだと思って、安易に2クラスに減らして、ちょっと規模を縮小して存続させれば良いんじゃないかというのも無理なのかなと思ったんですけども。それっていうのは普通科だからそうなのか。たとえば、素人考えですけど大月とかは自然があるんで農業専門学校にするとか。鳥沢に移転して扇山の森林組合なんかと共同して、森林環境科とか、そんな専門クラス1本にして、2クラスで行ったら先生もそんなにいっぱいいらんんじゃないか、まあ、17人ぐらいで行けるんじゃないかとか。素人ばいですが、そういう活性化策を明るく話せたらいいなあと。ちょっと余談ですけど、そんな風にも感じました。

だから、自分も廃止か存続かと言ったら良く分らないです。どっちかと言うと存続させたいけれど説明を聞いているとこれは無理だという事かなあというのが今の理解。で、その辺をもっと、本当に大月市は全部削っていかなければ無理なんですよ、というのを全国の市町村と比べて夕張まではいかなければいいけれどこの辺のレベルですよ、というようなものを教えていただけると、ちょっとしょうがないなあと言う風になるかなあと。一般の市民の皆さんもそういう思いだという風な感じですね。

議長 今のお話し、失礼ですが財政的なお話ししか出ていないですよ。そうじゃないですよ。財政的なものも一つの要因ですが、私の考えとすれば少子化という問題はいったいどう考えるのかとかね、あれやこれやひっくるめてね。それから短大との分離問題、評価問題も出ていましたからね。短大をどうするか、分離しなければならない。じゃあ移転しなければならない。移転するならば富浜中ですという、そういう話も出ているわけですよ。ですから、あれやこれや考えた所でじゃあどうするかという最終の所まで来ていると思うんですがね。財政的な問題は確かにあるわけです。じゃあ6千万何とかすれば何とかなるじゃないか。それから、専門制にすれば尚更人件費が掛かるんですよ。専門の先生を置かなければならないんですからね。ある程度農業なら農業専門の免許を持った先生を置かなければなんないからね、社会科ならば社会科、日本史も世界史も地理も一応免許を持っていれば出来る訳で、どうにもなるが、専門となるとちょっと、無理じゃないですかね。勿論そういう施設も。提案された商業科にした場合、特別教室、商業実践室が欲しい。それを造らなければならないと、いう話がこの前出ているんですよ。ですから、そういう特別教室を造るには1億何千万から掛かりますよという話までもう出ていますから。あれやこらえや踏まえて、一応結論をある程度この辺で出していかなければならないですね。

委員 今までの話の中で始めから行政としては、大月高校を閉校すると、そんなような意見でずうっと来ているんですよ。過去の話をするとおかしくなるんですが、過去の審議委員会とか、そういう事をやっている中で、行政がそれに対して対応していったかどうか。それも疑問視される。

そういう中で、ここで「是」か「非」、なんて言われても皆さん困っていると思うんです。はなからそういう時点で来ている。これだけの問題を抱えてきて、ここで一つ一つクリアーしようとしても無理という状況だと思うんですよね。赤字の面にしても学校運営にしても先生の問題にしてもそうですね。一つ良かったのは、耐震化の問題で富中という案が上がってきたのが良かったのかなという事ですが、その他については、もう全然前に進む状態じゃあないんです。学校の先生方の教育というのはおかしいんですが、採用面だとかそういう面に対しても全然前に進む考えがないような受け取り方。そうしたらもう、ここで「是」か「非」と言っても、しょうがない事だなという考えを私は持ちました。まあ、最終結論は議会なり市長さんの考え方次第で決まるんじゃないかなと思います。

委員 前回出た富中のお話し、あれは良い案だなあと思いました。その案に対して何が、どうすれば2クラス80人。さっきも意見がありましたけれど、頭の良い学校にするか、スポーツの学校にするか、もうそれしか無いだろうなと。大月市も大月高校はバレーボール、ソフトボール、野球もありました。スポーツも盛んな時期もありました。でも今、先生が定年をされる。その指導の先生が皆いなくなる。後任はいない。子供たちはやれるかと言ったらやれない。そう考えると、スポーツもダメ、勉強もダメとなると、やはり先ほどの渡邊さんのお話にあるように考えが出てこないと言うのが正直な所です。こういう形になった今までの経緯もありますけれど、自分的にはそれ以上浮かんでこなかったのが、廃校やむなしという風に考える方が強いです。

委員 財政的な問題について、事務局よりその答えを貰っていないですが、財政の大まかな資料も出ておりますので、細かい内容という事で要求しましたけれど、まあ今日間に合わなかったようなので、了解したという形でお願します。

先ほど始まる前に事務局の説明の中で、11月の15日迄に審議会の方向性を出して18日の説明会には望みたいという事の中で、素案を作って各委員さんに送りますと。その素案について、意見があったり、また、修正した方が良いという部分があれば、それに意見を出して修正して行くという説明がありました。わたしはそれに従いたいなあと、こう思っています。案を作る中で、当初の理由の中で1番目から四番目迄あったわけですが、一番目の少子化についての関係はここに述べているとおりで良いと思います。

二番目の所に「教員の資質向上と教育力の確保」という事をうたってしまうと、先生の資質が悪いんじゃないだろうか。あるいは先生の教育力が悪いと。大月高校の先生の資質が悪かったり、教育力が悪いと取れてしまうんじゃないかという懸念があります。この内容をみますと、大月高校の先生の中には臨時の任用の教員が多いという事ですので、この言葉を全面に出した方が良くないか。大月高校の先生というのは、先ほどからもありましたけれど都留、それから上野原、大月市内の何処へも行けないような生徒が入ってくる。そういう子供を一生懸命、一から教え直したり、一生懸命やっている努力というものは、他の県立高校の先生は良いですよね。子供たちが大学進学、あるいは基礎的な学力を身につけた子供たちが一生懸命やっているから勉強だけ教えれば良いという環境ですよね。説明はちょっと悪いかもしれませんが、ただ、それプラス大月高校の先生というのは勉強は教えなければいけないし、道徳教育も教えなければいけない。じゃあ道徳教育とは何かという事まで、モラルとは何だという事までも教えなければ

ならないと。生徒指導まで教えなければならない。そこまで努力している。そういう一生懸命やっている先生方に対して、頭から「教員の資質の向上」あるいは「教育力の確保」だ。そう言うような事をボーンと言ってしまって廃校だと出してしまうと、大変失礼になるんじゃないかと思いますので、この辺の文言の書き方というのは、廃校にするにしても十分に注意して説明としていかなければいけない問題だと思います。

三番目は耐震化ですから、もうこれはしょうがない。これはこのまま出して良いと思います。

市の財政についても、具体的に数字で説明が分かるような形で答申の中に盛り込んでいったら良いんじゃないかなあという風に思いました。

議長 教員の資質向上というのは、実は県立の場合にはかなり研修制度というのがあるんです。

大月市の場合には特にそういう制度が無いもんだから、なかなか研修で外に出るとかは無い。それから内地留学制度があるんです。そうすると相当財政的に余裕がないと出来ないんです。そう言う意味で「資質向上」というのは出ていると思います。出来たならばそういう研修なんかもね、制度として残していただければと、こういう感じはするわけです。「教育力の確保」と言うことは、別に悪いからと言う事では無いんだと思いますがね。

委員 それは分かりますがね、最初からうたってしまうと大月高校の先生がねえ、資質が悪いだとか教育力が悪いだとか直感的に文言が最初から出るとねえ、そうじゃあなくて題名で出すとしたら「臨時任用職員が多いから」というような形で出した方が見る人が、ああ、そうなんだということ。じゃあ、その臨時任用教員が多いというのは、大月市として財政が苦しいから正教員として採用しないのかというような議論になると思うんですよね。あるいは、試験があつてその試験に合格しないからなれないんだ、とかというような議論になってくると思うんですけども。頭から「教員の資質の向上」。県立の先生にだってこんな事は言えますからねえ。

委員 そんな風に実際、我々は考えていないですよ。学生のレベルが低い。そんな事は我々は思って考えていませんよ。言っている事がきついですよ。そんな事を言う方が私はよっぽど失礼だと思いますよ。

委員 前回、前々回の議事録を見てください。点数は、何処の高校は何点、何処どこの高校は何点。というように議論に出ている訳ですよ。

委員 それは、点数として出ていますけれど、それがレベルがどうのこうのとか、モラルの無い学生だとかは誰も言っていない。今、言ったことの方が私はよっぽど差別に近い言葉で、私はこれは消した方が良いと思います。そんな事は言うべきでないと思いますし、我々は教員のレベルが低い、高いなんて言う事も判断している訳でもないし、また、それも出来ない。それは私は消した方がよろしいかと思えますよ。実際、印刷されますから。それはやめた方が私は良いと思いますねえ。

委員 そこまで議論しなければいけないと思いますんで、やっぱり私は出して貰いたいと思います。

議長 要するに、いかにも教員の資質が無いような表現では困ると。そこん所だけですよね。ですから、細かいことを言うとテストの点数とか出ているわけですけど、ですが、要するにいかにも教員の資質が悪いというような表現では困ると。こういう事です。

委員 はい、そういう事です。

都留市から何人、上野原市から何人、大月市から何人来る、その生徒の学力というのは、そこは目をつむっちゃあいけないと思います。それは、言いたいです。

議長 現実には確かにそうですね。はい、分かりました。

委員 私は前から言っているように大月高校が存続のためには、特色ある学校を作って、そして公立の志望者が来る位の。まあ、それじゃあないと財政的にトントンにならないだろうと。そう言う学校にしない限りは、まあ先細りかなあという感じはします。もし活性化する場合は、市当局もかなりの覚悟を持って財政投資をしないともうこれは。たとえば、先生方を全部正雇用に替えるとか、施設も勿論ですけど。そこが無いと、やっぱり先細っちゃうかなあ。この少子化の時代ですから、どんどん生徒数は減ってくるという状況にありますし、そんな事を思います。

それから、もし閉校であれば中学校として一番心配しているのは、子供たちが行く所があるかという事なんですね。県の方ではたぶん定員を増やすと思うんですよ。大月高校の4クラスが無くなれば、その4クラス分の定員は増やすと思うんですが、その部分を確実に取ってくれば全部入れるんです。ところが足切りと言いまして、たとえば定員200あって、点が低いから30人落としますよという事になると、結局入れないんですよ。それが一番、親も勿論心配していますし、学校の先生方も非常に心配な所です。その辺が何とか出来れば、市の財政を考えた時に、本当に苦しい、というのは今学校現場でも非常にそう言う話も出ていますんで、良く分かっていますんで。まあ、その辺が学校としたら一番心配な所です。正直な所。

委員 前回お話ししたように行く場所がない、受け皿のための高校と言う事。まあ、中学校の進路指導の今の状況からすると、そう言う事を考える訳ですが、これは、だから存続して欲しいというのは、この前も言ったように前向きでない存続なんですね。これはたぶん、こういう事をしている、また同じ事が出てくると思うんです

じゃあ、もっと前向きな積極的な高校の存続とすれば、新たに生まれ変わるという事があると思うんです。これは、大月高校の名前も全て替えてという事も含めて考えていくと言う事も一つあるだろうと。それと、上野原、都留と3市ではやっていけないという事もありますし、身売りをするとすれば、それはもう大月市立では無くなりますので。そうすると、新たな大月市を造って行く為に、新たな目標を持った、必要性を持った新しい高校として生まれ変わるという事であれば、議論をしてどんな高校が良いんだろうか。人が集まってくる、また、大月がそれで活性化される。そういう次代のシンボルを作っていく高校の役割としての高校と言うことを、だから造って行きましょう。存続させて行きましょうという事で考えて行けば、先ほどから出ていた、もっと明るい話が出来ると思うんですが、それにしても最終的にはお金だと言う事です。財政が云々言っても行き着く所はそこだろう。そうすると、今の状況で行って、これをお願いして皆で力を合わせてやっていきましようと言っても到底無理だと言う風に。誰かお金を出してくださいと言うしかないんじゃないかと思っています。ですから、最終的にその所を考えれば、せっかく今まで歴史を守ってきた大月高校ではあるけれども、ここで苦渋の選択をせざるを得ないのかな、という風な状態になっております。

委員 やっぱり少子化の問題が大きいという事と、併設の問題は非常に大きな問題だと思うんですよ。で、県の方でも例えば大月高校を踏まえ、33パーセント減と言う事で5校の適正化と。も

う一つ峡南の地区では、やっぱり4校の再編を考えていますね。非常に人数が減る峡北なんかも35パーセントで再編を考えている。他の所はだいたいクラス数を減らしていけばなんとか学校の編成は出来そうですね。特に東部地区については地域状況がね、上野原高校が無くなって大月高校を残してくれれば良いんですけど、地域的にその辺が難しいのかなと言う事になると大月高校だけをどうしても残して欲しいというのは、非常に難しい所があるのかなという感じがします。今まで先生方がおっしゃるような事が全体の意見でやむを得ないのかなという感じがします。

議長 先ほどの足切りの問題でね、定員があって定員より少ない場合、たとえば都留高の話をするとならば280名の定員で257名入学しているんです、今回。おそらく、審査の状況は分かりませんが、校長さんの立場にすればね、全員入りたいんですよ、定員一杯ね。だけど、他の先生たちは点の低い生徒を入れた場合に、誰がそれを指導したり、こんなお荷物を抱えるのは嫌だとかなり反対するんですよ、校長の立場としてはできるだけ入れてあげたいという気持ちがあるんですがね。特に定員を割っていた場合。ところが一般の先生たちは、そんな事は関係ないんです。点数をある程度何点ならば、さっき点数が出てきましたよね、一般の先生方の。だからそこで校長が決断しなければならぬですよ、難しい立場に立つわけですが、いずれにしても、かなり校長さんにすれば出来るだけ大勢ね、入れてあげたいという事でやるんですがね。ただ、定員をオーバーした場合は、どうにもならないですね。それをご理解いただきたいと思うんですがね。ま、中学校の立場としたら出来るだけね、入りたいという気持ちはあるわけですが、どうしてもある程度、そこまでのレベルに達していないと足切りという事は出てくるかもしれませんが、校長の立場からすれば、出来るだけ入れるという立場に立つと思います。

委員 まあ、30人切るというのは絶対にあり得ない事で、多くとも2人とか3人、1人切るか切らないかで揉める事が多いんじゃないですかね、一つの学校で。そう思います。

委員 やっぱりその辺は県の指導も入るわけですよ。たとえば、定員を割ってまで10人落とすとか、そういった場合にはかなり厳しい指導が県教委から入りますよね。

議長 それはその通りですね。だいたい皆さん方のご意見は伺った訳ですが、議事録も出しておりますので、方向性とすれば結局、今までの議論とすれば閉校もやむを得ないかなという事なんですけれども、富浜中の提案もしてあったので意見をいただきましょう。

委員 私の意見を率直に述べさせてもらいますと、大月市には明るい材料は無いですね、全く無い。じゃあ、これで大月高校が無くなる。ただ、財源が足りないから、少子化だ。先走った考えで、ここで結論を出して良いのか。たかだか6千万、先ほど言いましたように。本当に数パーセント、じゃあ他のものは削れないのか。この議論は我々もかなりやっているんですがね。まあ、簡単に言いますとシルバーお出かけバス。若者に対しては何のメリットも無い。その中でも教育長、かなりの金額が要っていますよね。高校の赤字分ぐらいは某バス会社には、行ってますよね。本当に今、東部医療圏の問題で国が100億という金をばらまこうとしている。これに県が乗り出して、この東部医療圏を何とかして100億を模索している。まあ、これはどうにかならないじゃないか、まあ、25億。という考えのお話を伺ったんですけども。県がやろうとしている事は、25億になった場合は東部だけだよ。前は、郡内でやる100億。今は100億はまずいんじゃないか、

25 億になるんじゃないかという事で東部の事だけを考えている。そうすると、東部と言っても上野原は上野原であれでやっいるから、まあ足りているから良い。やはり、都留と大月なんですよ。これをどうしようかとすると、統合して都留に病院を建てる。ここしかないから。じゃあ、大月は何が残るんだ。という事なんです。病院も私が議員になって 6 年、26 億 3 千 3 百万の赤字、26 億ですよ。学校なんか屁みたいなもんだよ。毎年 5 億削られる。そちらの方が手を打たなければ財政、財政と言ったって結局は他に行き着いちゃうんだよね。開発公社の問題、企業団の問題。この赤字をどうして行くか。6 千万、7 千万の金じゃあないだよ、これ。ここに払っている金は。財政の問題を議論するんだったら、そこまで議論しなければならないだよ。

先ほど建て替えたり、建て増しに物を建てるとしたら 1 億、2 億かかると言うけれど 9 億 5 千万程の積立があるだよ。これを送り込むことも出来る。ただ単に廃校ありきでの議論を進めているけれど、大月って本当に何も無くなるだよ。だから俺があえて富中が無くなった時には、そこに何とか出来るんじゃないかという、そういう議論ももっと欲しいんだよ。先生が要るんだったらいいじゃん。先生が何人要る、そうしたら幾ら金が掛かりますよ。そういう所の議論まで行っちゃっても良いと思うんだよ。財政の問題を考えるんだったら。それは、公立の高校なんだから利益なんか誰も求めている訳じゃあないんだよ。そこに利益があったからどうのこのじゃあなくて。そこにしか行けない、そこにしか出せない親だっている訳だよ、大月は。だから、その辺の事を思うと本当にそれで良いのかよ。6 千万、7 千万の金なんですけども、一般家庭にしたら大変な金なんですけども、市の財政にしてみれば、他の分野を何とかすれば何とかなる金じゃあないのかと俺は思うからあえて、他には建てられないけども富中で 2 クラス、まあちょっと金を掛ければ 3 クラスぐらいにはなるのかな。だから俺としては、その方向性もちょっと考えてもらって議事録に載せておいて欲しい。皆さんが廃校で良いよと言ったとしても、この問題は答申の中の一部でその文言は入れておいて欲しい。それをまた議会でもまなければだめだよ。市長とも言い争わなければならぬ。ただ、財政、財政だけで言われると、他の物はどうかと言いたい、本当に。もっと大変な事になる。連結決算されると、この大月市は本当にワースト・ワンになるんじゃないか。それは今までの付けだよ、開発公社にしる、企業団にしる。つくづく思うに付け、ばかげた事をやってきた、大月市は。それは議員になってつくづく思った。だからこそもっと明るい材料はないのかなあ。ただ単に財政が苦しいからと言って、6 千万、7 千万と言うのであれば、夢も希望も捨てちゃうのかなと。と言うことだけで、それはあえてそんなに良い方法じゃあなくても俺は良いと思う。そこしか出せない親がいれば。それを救ってやれるのも一つの力になれるのかなと、それも行政なのかなと思う。その思うだけを入れておいて下さい。まだ議論をする余地は、俺はあると思っている。答申はそうは言ってもね、皆さんの意見ですから尊重します。しかし、それに一部俺の意見も入れておいて下さい。それはまた、議会の方で揉んでみたい、という思いです。以上です。

議長 答申の方向性というものもある程度見えて来ている訳ですけど、この後、先ほども申し上げましたとおり、事務局と会長と副会長で相談しながら答申案を作って、次回の会に提案して、文言の訂正はあろうかと思いますが、そんな事でまとめる事でどうでしょうか。

委員 今までの発言を伺っていて、とてもいろんな疑問が沸くんですが、高校というのは義務教育な

のでしょうか。

委員 そうじゃあないです。

委員 そうは言っても今は義務教育の一環だと俺は思いますけどね。綺麗事じゃあなくて。

委員 でも実際、義務教育でないとするならば、これは先ほど私が申し上げたように、全員が高校に入学するための措置をどう講じるか。というお話しになるじゃあないですか。大月高校が受け皿であって良いのか、どうなのか。すごくシビアな話になると思うんですけど、大月高校の先生方にインターンシップの時にお聞きすると、家庭の中の不景気が反映していて、子供に学力があるが無かるうが、高校に行けない子供が増えているんですよ。という話を伺った時に、私はむしろそういう所に目を向けつつ、その子どもたちのやる気だとか、やめたくないという所をどういう風に救済していくのかと言うのも一つの考え方ではないかと。本当にシビアな話なのであまり極端な話はしたくないんですが、やっぱり高校というのは義務教育では無いと私も思っています。その中でどういう子供たちを受け入れていくのかっていう。今、そのいわゆる発達障害の子供たちもいるわけですよ。発達障害というのは軽度発達障害ですけど、そういう子供たちも高校に入る訳ですよ。高校の方ではそういうリスクの高い子供たちを、なるべく受け入れたくなくても入るわけですよ。県の施策としても、まあ国の施策ですけど。そういう子供たちを受け入れるためにカウンセラーの先生を入れなさいとか、そういう委員会を作りなさいという事も含めて今、動きが出ていると言うことは、いろんな子供たちを受け入れざるを得ない。その時に、いろんな子供たちを受け入れる時に、大月高校だけが考える事なんではないでしょうか。大月市民だけが考える事なんではないでしょうか。やっぱり東部地区という大きなくくりの中でこの存続の問題を語られなければ、やっぱり違うんじゃないか。確かに特色が無くなるとか、何が残るんだ大月には、と言われればそれまでですよ。でも、それだけじゃあないはずなんですよ。市の方の政策の問題やいろんな立場があると思います。財政問題も今までのつけだから、そこを削れば良いじゃないかとか、こういう風にすれば良かったじゃあないか、と言ったって出来ないでしょう、実際。だったら、今あるところから出発するしか無いんじゃないかと思うんですよ。

委員 ちょっと待って下さい。出来ないと決めつけないで下さい。

委員 ここで財政問題を言ってもしょうがないと思うし、実際私も議会に出ていないから分かりませんが、事実、今の大月の財政を見れば確かに無駄はある。さっき言った公社、中央病院もある。だけど、それも出来なかったんだから、今更ここに来てね、今財政のことを言っても急にこれが立ち上がる訳がないんですよ。さっき病院の問題も出たけれど、100億だめになりました。私はこれにずっと背面下で動いていました。一番がっかりしているのは私なんです。特命を受けてこの100億を何とか東部に持ってきて、さっき言った都留に造る。都留に造ると言ったら文句が出たんですけど。じゃあ何処がある。

委員 いやあ、文句なんか出ませんよ。

委員 だから、そう言う所までやっていたんですよ。だけど政権が変わって一夜にしてそれがだめになって各県25億。そうじゃあなければ県に130億の我々の予定を組んでですねやって来たんですよ。私も悔しくて眠れませんでした。正直言って私なんか開業医は、そんな病院が出来たら潰れます。だけどそんな事は関係ないじゃあ無いですか、町を良くする為には、先ほど言ったように

財政がどれだけ苦しいか分からないと言ったけど、それは市民があまりにも低レベル。分かるじゃあないですか。

委員 それほどひどいと言うのは、例えば具体的になんて言えばいいんでしょうかねえ。いろいろ財政仕様があるじゃあないですか、将来負担比率が、全国の市町村レベルで大月市は何位にいるんだとか、前年は何位だったのかとか。

委員 それは出ていないけれど、高いわけが無いんで、そう言われても細かいことは分かりません。生きていればこの町で、分かるでしょう。

委員 分かりません。悪いけれどここに来て、市長がかなりオープンにして来た。という事で比率はかなり高いでしょう大月市は。

委員 高いですよ。高いのは知っているけれど、高いからと言って、黒字で高い訳じゃあないじゃあないですか。

委員 市町村はどこも赤字ですから。その経常比率が大月は良いというのは確かです。今後の問題です。これは連結です。これをくれられたら大月はワースト・ワンになる。これは分からないですよ。

委員 そんな事を言ったら、今からそうだから、削れるところを削っていかなければ、それがもっと苦しくなってくる訳じゃあないですか。それが今まで通り比率が高いから、これも良い、あれも良いと言っていたら、それこそ夕張になるからこういう手段を先手を取って行こうと考えているわけですよ。

委員 それはわかりますよ。

委員 ですから、6千万だからずるずる引っ張っても良いんじゃないか、と言う問題では私は無いと思います。

委員 そうじゃなければ、この審議会が何のためにやっているか良く分からなくなっちゃう。

委員 いや、良く分かりますよ。いろいろな意見があって良いはずなんですよ。

議長 財政問題も一つの要因なんです。これはかなり大きい問題だと思います。まあ、少子化の問題、短大との併置の問題。いろいろ複合的に噛んできている訳ですよ。ですからそれを踏まえて、じゃあどうするかと言う事で、ある程度答申を出さなければならぬと思うんですよ。それから、県とのつながりの問題もある訳ですよ。ですから、勿論答申にはそれを入れる。入れないと皆さんが閉校だけで進んできたよと、そうじゃあないですよ。あれやこれや考えて最終的にどうしようかと。と言う事になるかと思います。そんな事で最終的な答申案のたたき台を作りたいと思うんですが。後、事務局で作って次の機会に案を出して、そこでもって最終的な答申と言う形にしたいと思いますが、どうでしょうか。

事務局 東部地域全体での統一した全体の問題と言うことを、文言に入れる。それと2クラスという事も論議したと言うことも、そうしたものを踏まえまして方向性というか答申内容を出していく。

議長 特にここでもってね、こういう事を入れてもらいたいとか。今迄ね、いろいろな意見が出ていますけども、かなり拾って入れていきたいとは思いますが、特にこういう事を強調して入れたいという中身ございますか。かなり細かい所まで論議して来たんですけども、それを全部踏まえて容れて行きたいとは思いますが。

委員 4地区で聞き取りをした内容を審議したと言うような内容は入れる予定ですか。

事務局 それは、あくまでも地区対話ですので、この審議会の内容に入れるのはどうかと思いますので、入れる予定は事務局としてはございません。

議長 市長と対話した中身もここで議論した中身と重なっていると思うんですよね。若干無いのもありますけれどね。ほとんど重なっていると思います。

委員 財政問題だけ前面に出すのは良くないと思います。やっぱり教育にコストが絡むと。

議長 それは前の審議会の時にも釘を刺されていますよね。財政問題だけで教育は語るなど。

委員 意味があれば幾ら突っ込んだって良いんです。要するに僕が言ったように、意味のある赤字なのか、無意味な赤字なのか。そういうものを判断するという事は、私は必要だと思います。教育は無意味だとは言いません。だけどそれは、いろいろな考え方がそれぞれあると思いますけどね。

議長 それも今までかなり、将来的明るいビジョンでもって、つぎ込んで行くんじゃないか。という事も出ていましたからね。それは勿論そういう事も入れるような格好になると思います。

どうでしょうかこの辺で、先ほど言ったような事でまとめ上げたいと思います。

委員 財政の問題。つまりこういう段階になって、市民の対話集会を開いて市の財政の問題云々というのは出ていたんですが、私は極力財政の面は厳しいかもしれませんが、公設民営化なり学校法人化に別にやるように考えてみたいなど。というような事もあるんですが、閉校すればいろいろな問題も、今、中学校の校長先生方の話も聞きましたけれど。私なんか大月高校があったから高校を卒業して、どうにか短大も卒業して現在大月に住んでいるわけですからね。ですからレベル的な問題、もろもろありますけれどもなるべく、まあ、今、義務教育に近いような高校になっていますんで、レベル的に低いと言えば失礼かもしれませんが、そういう高校があっても良いんじゃないかと思います。ですから、私立なり、法人化で出来る方法があれば行政でも検討して貰って、前向きにですね。あえて競売なりなんなりそう言う方法で、やって貰う必要もあるんじゃないかと思いますけれど。その辺も検討していただきたいと思います。

議長 検討してと言うと、そういう要望事項という事でしょうね、審議会とすれば。

委員 そうですね。ですから、「是」か「非」という事になればね、「非」になるか「是」になるか、その辺はあれですけど、今からやってすぐには閉校にはならないと思うんですよね。今から3年間。今いる子供たちがいる間、その間でも良いと思うんです。で、途中で子供たちが増える事もある。今年の中学3年生の生徒さんはだいぶ多い。後、3年後か4年後に多少また増えてくる。

議長 増えては来ませんよ。

委員 ですから、ある程度は減りますけれど、ある程度学校の中で締めていけば、人数的に割れてくる。あえて言えば、レベル的で割れてくる子供たちも多少は出てくる。と言うような事もちょっと聞いているんですよ。ですから、そういう事を考えてやっぱり大月高校の存続というものは、地域活性化。また、いろいろな問題で赤字とは言っても、どうにか存続できるような方法で前向きに市の方でも検討してもらいたい。

議長 と、すればね、さっきお話ししたように前向きに。今までの状態で前向きになる具体的方法が無いと、結局じり貧になっちゃう訳ですよ。で、そこを危惧してどうだろうか、県立と高校の

話し合いで、その受け皿を県立の方へ向けたらどうかと言う話まで出てきていますね。ここでもし、そう言う話になってね、それが存続すると言う事になると、今度は県の方がどう考えるかねえ。そこの兼ね合いもやはり考えなければねえ。具体的な何か案が出てこない、ある程度こうですよと言う話が出てこない。ですから、ああ言う方法も一つの案なんですよ。

委員 ちょっと良いですか。財政のことは書かないで欲しいとか、書かないでくれって言ったんですけど。

委員 それだけが問題じゃあ。

委員 分かりました。行政として一番最初に取り上げたのがそこなんです。財政がこのままで行くとこの学校の維持が出来ませんよという所から始まっているですよ。だから、そこを第一ラインにして何が悪いんですか。財政がないからこの存続は、少子化と兼ね備えていくと将来は維持できませんよ、という所から始まって諮問に掛けられている訳ですから、財政のことを書かなきゃあ何を書いたら良いのかなあ。

委員 だから今、無理をして6千万つぎ込んでやっていけない事はないですよ。私はこれは何の事業でもそうだと思います。それがだんだん来てこないと。

委員 私はどっちかという、病院だって切る方でしたから。

委員 私もそうでしたけれど。

委員 そうでしょう。学校も皆の要望があれば存続すべきものじゃあないのかなあ。という思いがあるから。でも、そこには財政という問題があるから、表にボーンと出さなければ、これは嘘つきになるじゃあないですか。

委員 だから、審議会というのは、多数決でやるのなら簡単なんです。それが出来ないのは、審議会で答申をしなければいけない。だから内容的には、多くの意見としてはこういう中で、閉校という考えも強いが、中の意見として、存続する時にはこういう形でもって。後は議会でやってもらうしかないでしょう。

委員 それは良いですよ。ただ、財政の事をあまり表にどうのこうのと言われるよりか、財政がこうだからこの審議会はこうだよと言う事で始まっているから、そこを前面に出さなきゃあ。何が悪いんですか。

委員 だから、通常の一般市民としては、財政の事をそんなに詳しく聞いている訳ではない。実際、聞きようがない。だから、実際にそれを検討するならば、ここにはっきりとした資料を出さなければいけないし、我々がやる必要はないじゃあないですか。

委員 そうじゃあなくて、私が言っているのは、はっきりそれを表に出して書いてもらっちゃあ困ると。

委員 表に出すなと言っている訳ではないです。だから、それだけがクローズアップされれば、そう言うことは。

委員 クローズアップされたから、この委員会が持たれたんですよ。

委員 それだけでは無いですよ。

委員 この間の市長さんの対話の中で、やっぱり出たのは財政の問題と少子化の問題なんです。その二点だけです。

- 委員 でも、財政の財源とかだけが一人歩きし易いじゃないですか。そのことだけが理由で、大月高校の存続が語られてしまったのではないかというような、懸念が持たれるような。
- 委員 思っていないんですよ。それしか。
- 委員 じゃあ、皆さんそうですか。たとえば、私が理解しているのは、勿論財源の問題は大きいと思いますけれど、少子化の問題だって。
- 委員 だから、その二点だけです。
- 委員 だから財源も少なくなるし、少子化もあって、両方の兼ね合いとすれば、閉校にならざるを得ないと思いますよ。と言うことでしょ。
- 委員 だから、それを出さないで他に何を出すんだと言うことですよ。
- 委員 で、もう一つは全体の問題として、大月市立高校の存在が大月市だけの問題ではなくて、それはやはり県立高校も含めて全県一区という形になれば。
- 委員 半分しかいないですからね。それは分かります。
- 委員 だから、何処を強調するとか強調するなとかと言う事ではなくて、それだけが一人歩きし易いという事があまり良い事ではないと思っているんですよ、私は。
- 委員 良い事でなくても、市長との対話集会でまず、一番最初にぶち上げられたのが財政の問題だから。市民はそう思うしかない。はっきり言って。そこに大月高校の将来性はどうかのなんて話よりは、まず財政の問題から語られて、今、大月はこの状態で財源が無い。それで、少子化の問題も兼ね備えて。少子化の方が後なんだよ。俺も全部の会場を聞いていたんだけど。まず財政の時間で終わっちゃっているんですから。
- 委員 根本的にはね、教育の根本資質というものがあって、2 クラスではあまり良い教育が出来ないと言うことが。クラブ活動も出来なければ本来の学園生活というのも出来ないというのもある。
- 委員 小・中の事を言うと、小学校を統合してきた。でも、子供が少ないなりに学校は良い教育が出来ているんですよ。と言う事だっけかなりぶち上げてきたんですから。
- 委員 そうなんですけれど、先生が今、言ったように、たとえば普通の一般高校の中でも、身障者とかいろんな方も受入るようになって来ているんですよ。これはノーマライゼーションと言って、いわゆる皆平等だよ。と言う中でいろんな人を見ながら育つとか、そういう人を助けながら教育をして行くとか、そういう心を持たせる為には、そういう教育の場でなければ出来ない。と言う一つの観点もあるわけですよ。と言うものも含めて教育の根源というか根底を考えると、やはり、財政とかそういうものだけではなくて、そういう場の教育の方に行った方が良いんじゃないか。と言う事も加えていかなければならない。いわゆる、これからは教育というものを考えていかなければならない。ただ、存続をすれば良い教育が出来ると言う問題ではないんです。
- 委員 廃校ありきで行ったらその議論は成り立ちません。
- 委員 そうじゃないんです。県立高校で受け入れてくれる訳だから、そういう所に行けばもっと視野も広がるし、そういうノーマライゼーション的な高校に行けば。たとえば、障害者がいれば友達も出来る、そういう人に対しての心の映りも出来る。いろんな事があるからそういう意味での教育にもなると言う、教育の根底と言うものをやるには、そういう場でなければ出来ませんよと言う事も今の教育の中には入っている訳ですよ。だから少子化の中で少人数で教育をすれば良

い。と言う事では、ある意味では疎通制も無くなり、いろんな事もあるから。と言う事もあるんじゃないですか。

委員 ですから、私はそっちの方を取ったから統合に賛成した。ただ、それだけであってね。ただ、一方では好ましくないながらも良い教育は出来ているんですよ。と言う意見もある。それが大月高校との関係は、大卒で存続問題は存続ありきで話をするならばまだ、その持論は成り立つけども、廃校ありきで話をしている時にそんな綺麗事を言っちゃって。

委員 綺麗事はそっちの方じゃないですか。

委員 それは綺麗事じゃないですよ。

議長 はい、じゃあこの辺で。財政問題から始まって、いろいろ教育論まで出てきた訳ですが、どうでしょうか、時間も来ていますので、今まで議論した中身を事務局、それから私と副会長さんでたたき台を作って次回の審議会に提案して。と言う事で今日の所はちょっとこれでお終りにしたいと思いますがどうでしょうか。

長時間有り難うございました。

次回日程を 11 月 12 日（木）午後 6 時から市民会館 4 階会議室で行う事を確認し終了した。

以 上